

市川自然博物館

6・7月号

(通巻12号)

たより

シャッター
チャンス

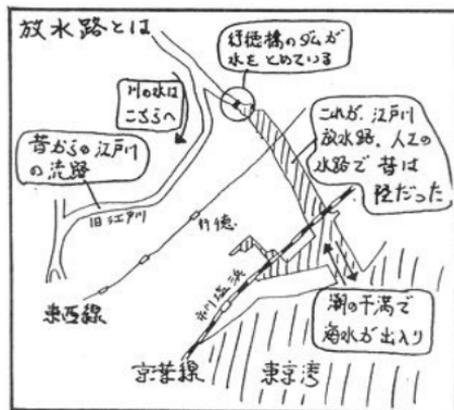
～ハマヒルガオ～

江戸川放水路の河口付近にわずかに広がる砂浜では、5月から6月にかけて、ハマヒルガオが花を咲かせます。

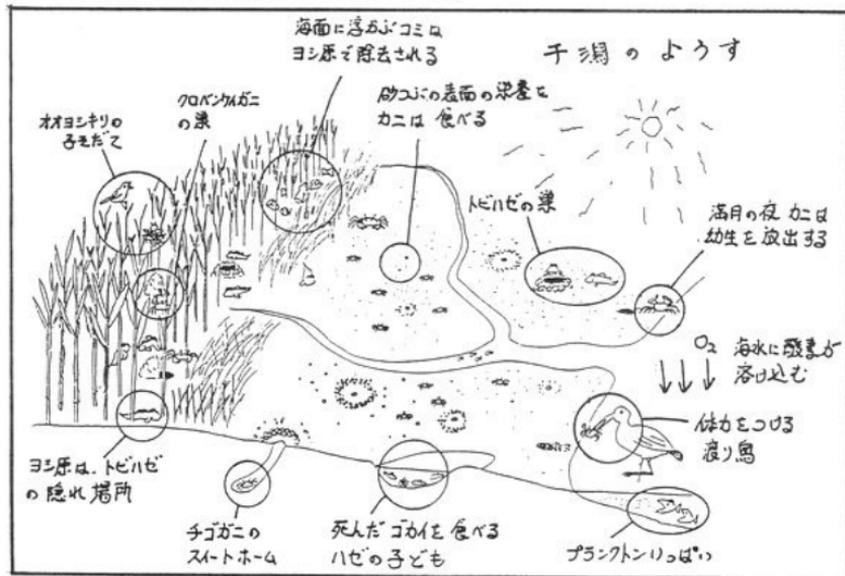
ハマヒルガオは、海岸の砂浜に群落をつくる多年生のつる植物で、砂浜をはうように茎が伸びます。厚くつやがある丸い葉には、クチクラという透明な膜が発達していて水分の蒸発を防ぎ、塩分から身を守っています。

淡紅色の花が砂浜一面に開花する様子は、とても美しいものです。干潟と埋め立て地ばかりの東京湾奥の中では特異な風景をつくりだしています。

特集 市川の海



◎放水路にできた生物の宝庫 -干潟-
 潮が引いている時、放水路には干潟が姿をあらわします。干潟は海水と砂や泥が作る独特な環境で、栄養分に富み、たくさんの生物がくらしています。また、干潟の後背地にはヨシ原がつきものです。ヨシ原は干潟の生物にとってなくてはならない場所で、産卵や成長、冬眠の場所として、また隠れ家としても重要です。



江戸川放水路

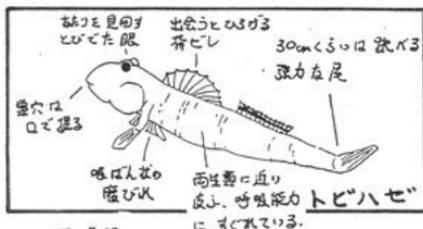
◎こんな生き物が観察できます

・トビハゼ

魚なのに水の中にいることが好きではないトビハゼは、潮の引いた放水路の干潟の上でピョンピョン飛び跳ねています。有明海のムツゴロウのように有名ではありませんが、昔は東京湾や瀬戸内海、有明海、紀伊半島や四国など、東京湾より西の太平洋側の河口干潟にいくらかでも生息していました。しかし、生息に適した干潟が各地で埋められてしまい、現在、東京湾では江戸川放水路の干潟と新浜の人工干潟、谷津干潟の3ヵ所だけに生息しています。そして、実際に目の前で自由にトビハゼを観察することができるのは、江戸川放水路だけなのです。

・アサリや他の貝類

5月の干潟では、人々は潮干狩に夢中です。江戸川放水路の場合、河口の京葉線鉄橋付近でよく採れるようです。潮干狩の対象になる貝はアサリですが、そのほかにもいろいろな貝が生息しています。



・チゴガニ

江戸川放水路の干潟に降りてまず目につくのは、無数の小さなカニが白いはさみを上げ下げしている光景でしょう。まるで、カニが体操をしているみたいです。このカニは、チゴガニといいます。はさみを上げ下げしているのはオスで、白いはさみを振ってメスにアピールしているのです。5～6月は、カニの結婚の季節です。





おじゃまします!



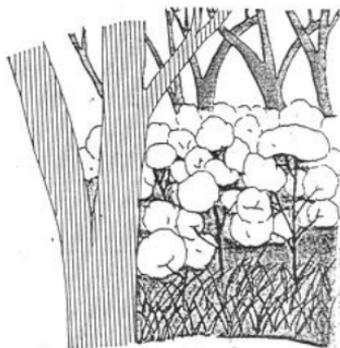
街かど自然探訪

市内でみられる、身近な風景を紹介していくこのコーナー。第2回は、JR市川駅をはさんだ2つの町、市川南と市川です。

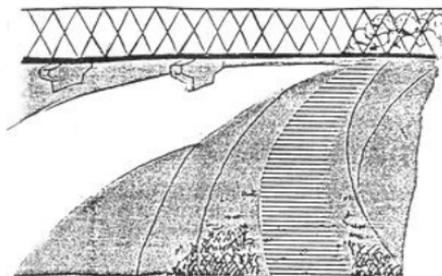
市川南

江戸川堤防の楽しみ

市川南あたりの江戸川の堤防は、芝でおおわれ広々として見晴らしがよく、国府台の森や、冬には富士山もよく見えます。こんなに空を広く見渡せる場所は市内でもあまりありません。芝にまじってたくましい野草たちが小さな群落をつくり、ハトやムクドリ、水面のカワウなどの他、夏にはツバメ、冬にはカモやカモメの仲間を見ることができます。



▲クスノキの大木の下には、アオキやシロゲモが多い。亜高木層がないので、林内がほろろ空いている。



▲ 広々としたエキと国府台の森

市川

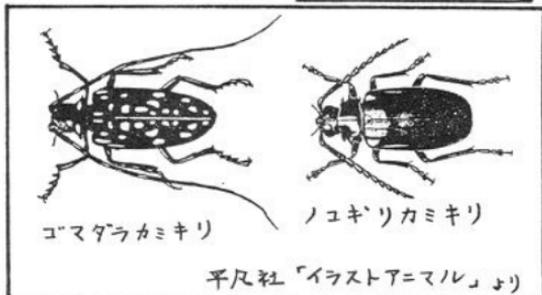
4丁目のクスノキ

市川駅から大門通りを北に向けて歩いていくと、前方に真間山のこんもりとした森が見えてきます。この森から、里見公園の江戸川沿いにかけては、常緑樹の斜面林が帯状につづいていて、すばらしい景色をつくりだしています。「つぎはし」を越えて弘法寺の階段が見えてきたところで左に折れると、前方右手の斜面林の様子が少し変わってきます。そこはクスノキの大木が何本もある林になっています。特に5~6月頃は、クスノキの葉がいっせいにはえかわり、輝くような新緑が、遠くから見てもみごとです。

市川のこん虫 カミキリムシ



6月から7月頃、雑木林にゆくとカミキリムシをみかけます。カミキリムシの特徴は、体が細長いこと、長い触角（しよっかく）を持つことです。カミキリムシは丈夫な口を持ち、木の皮や枝をけずりとしてエサにしています。花粉をエサ



ゴマダラカミキリ

ノコギリカミキリ

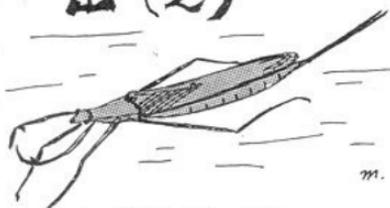
平凡社「イラストア=マル」より

にするハナカミキリのかなまもいます。また、ゴマダラカミキリなどをつかまえると「キイキイ」という警戒音を出します。この音は体の一部をこすりあわせて出しています。市内には、今まで約50種類のカミキリムシの記録があり、柏井等の雑木林などではミヤマカミキリやノコギリカミキリが、行徳等の市街地ではゴマダラカミキリがよく見られます。

むかしの市川 ～ その10 ～

真間川の思い出(2)

真間川の土手道は、私の通学路でした。毎日の通学の道すがら、季節の生物の生活に触れることができました。梅雨にぬれた土手道におたまじゃくしから変わったばかりの小さなカエルが、豆をまいたように、足のふみ場もないほどたくさん飛び歩いていたこと。雨のあと、車のわだちにできた水たまりに、ミズカマキリが呼吸管を水面に出して泳いでいる姿を不思議に思ったりしたこと。夏の夕方、自転車を走らせていたら、水面から飛び立った大きなゲンゴロウが顔にぶつかってびっくりしたこともありました。ホタルも飛んでいました。



また、真間小学校の対岸あたりに耕地・整理組合の池がありました。田植え時には真間川の水がせき止められて、この池が滴水となり、今は暗きよとなった用水路を通り、市川駅の南の水田へ運ばれていました。この時、小さな四つ手網を、この用水にいれると、子鮒や朝鮮鮒が面白いほどとれたものです。

(博物館指導員 大野景徳 記)

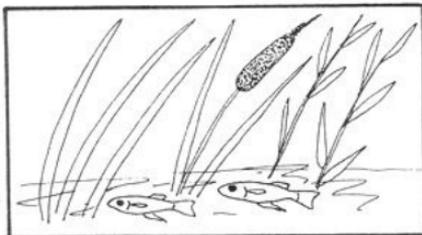
大	
町	歳
	時
	記

夏が近づくと、自然観察園の湿地は、一面の草におおわれます。全部同じ植物のようですが、よく見るとヨシ、マコモ、ガマなどいろいろな植物が生えています。

ヨシは、自然観察園で一番多く、いたるところに生えています。30cmぐらいの葉が、茎からたがいちがいに出ています。マコモは、根元が水に浸っているようなところが好きで、水路の近くにだけ生えています。数はそんなに多くありません。葉は大型で幅3cm、長さは1mにもなり、水の中からビュッと伸びています。ガマは、6月頃から形が変わった花をつけるので、すぐにわかります。ガマの花は、形も大きさもちょうどアメリカン・ドッグのような雌

花の上に、フサフサした雄花がついています。

その他に、ヨシに似ているが柔らかなクサヨシ、春先にいっせいに花を咲かせるカササゲなどがあります。湿地に生えるこれらの植物はととてもよく似ているので見分けるのは大変です。



行徳野鳥観察舎 だより

マツの新芽

どちらを見ても新緑がみごとだ。落葉樹の若葉のういういしさは食べてしまいたいほどだが、新芽に飾られた常緑樹も美しい。クロマツの花ざかり。枝先から、ひょうっと30cm~40cmものびた新芽のつけね近くに茶色っぽい雄花がこちゃこちゃとかたまり、黄色い花粉を風に流している。マツの花粉はスギとは違って花粉症の原因にはならないそう。新芽の先端には赤い雌花が2つ3つ。小さいまつかさの形で、文字どおりの「まつぼっくりの赤ちゃん」。去年生まれの若いまつぼっくりは雄花に半分隠れ、満2才の成熟したマツの実は、一段下の枝わかれのところでかさを開いている。年に一度の枝わかれから、マツの木の年齢や、年ごとの成長ぶりを調べるのもおもしろい。



文と絵・蓮尾純子

市川の鳥

7月20日(土)～9月23日(月・祝)

市川で観察される野鳥のうち、普通に見ることができる種類について、自然博物館に収蔵する剥製標本や、写真によって紹介します。

- (展示の主な内容)
1. 干潟でくらす鳥
 2. カモのなかま
 3. 湿地や草原の鳥
 4. 猛禽のなかま
 5. 林にすむ鳥



講演会 「市川の鳥」

企画展の開催期間中、第一線でご活躍の方々を講師としてお招きし、市川の身近な鳥の話題について、楽しく、わかりやすく紹介します。

月日	会場	内容
第1回 7月27日 (土)	市川公民館 視聴覚室	都市鳥の生態 唐沢孝一氏(日本鳥学会幹事、都市鳥研究代表) 人間とともに都市に暮らす鳥たちの生態について紹介します。
第2回 8月3日 (土)		大都会にすむカワウ 福田道雄氏(東京都上野動物園飼育課) 東京湾の代表的な大型水鳥であるカワウの生活について紹介します。
第3回 8月17日 (土)		北方遊水池の野鳥 石井信義氏(市川学園高等学校・中学校教諭) 市内北方4丁目での長年の観察をもとに四季の野鳥を紹介します。
第4回 9月7日 (土)	行徳公民館 集会室	行徳の野鳥と環境 蓮尾純子氏(千葉県行徳野鳥観察舎) 行徳地区の自然環境の変化を水鳥の生活を通して紹介します。

* 各回午後3時より約2時間の講演です。午後2時30分より受付いたします。

お気軽に、ご参加ください。

行事 あんない

「6月の自然観察会」

- 日時 6月23日(日)
午前9:30~11:30
- 場所 江戸川放水路
- 内容 浜辺の植物
- 申込受付期間 6/10~6/15
- 定員 先着20名

「7月の自然観察会」

- 日時 7月14日(日)
午前9:30~11:30
- 場所 江戸川放水路
- 内容 干潟の生物
- 申込受付期間 7/1~7/6
- 定員 先着20名

申し込み方法
 * 往復ハガキに参加者全員の住所*
 * 氏名・年齢・電話番号を明記の*
 * うえ自然博物館までお送り下さい*
 * (期間内必着) *



次号は7月1日発行
増刊号です

「ホテルの観察会」



- 日時 7月30日(火), 31日(水)
8月1日(木), 6日(火)
7日(水), 8日(木)
- 場所 大町自然観察園
- 申込受付期間 7/15~7/20
- 定員 各回30名
申込多数の場合は抽選
(申込ハガキに参加希望日
を第2希望まで記入)

夏休み行事

「標本のつくり方教室」



- 日時 昆虫コース 7月26日(金)
植物コース 7月27日(土)
貝コース 7月28日(日)
各日 午前9:30~12:00
- 場所 自然博物館
- 内容 昆虫、植物、貝の正しい標本のつくり方を学習します。
- 申込受付期間 7/15~7/20
- 対象 小学校4年生~中学校3年生
- 定員 各コース先着10名
(申込みハガキに、参加したい
コースの名前を明記して下さい。
全コースも可)

市立市川自然博物館だより
 第3巻 3号 (通巻第12号)
 発行日/ 平成3年6月1日
 編集・発行/ 市立市川自然博物館
 〒272 千葉県市川市大町 284番地
 ☎ 0473(39)0477